

Ram Air Intake System

ラムエアインテークシステムNo. BKA2 V5 900

取付・取扱説明書

AutoExe
A New Driving Sensation

株式会社オートエクゼ

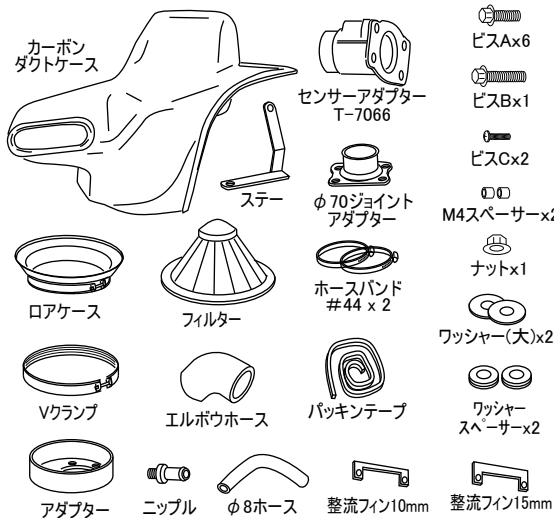
〒135-0051 東京都江東区枝川2-15-8
TEL 03-6458-7251 FAX 03-6458-7261

この度は、オートエクゼ ラムエアインテークシステムをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本書は、当製品を車輛に組み付ける前に行う作業、組み付ける時の注意点が記載してあります。作業を行う前に必ずご一読いただき、お取付の際には本書に従って作業を進めていただくようお願いいたします。また作業終了時には本書を必ずお客様にお渡しください。

適合車種: アクセラ(BK3P/BKEP)

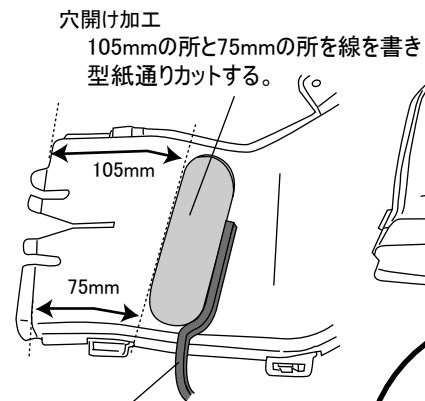
- 本書に記載する説明にしたがって装着を行ってください。本書に記載する以外で、当製品の取付け上やむを得ない場合を除き製品の加工・改造・分解および、車両の改造は絶対行わないでください。
- 当製品の通常の取付けに関しては、法律に定める自動車分解整備の項目に該当するものではありませんが、作業の方々は自動車整備を専門に3年以上経験されている方、または当該経験者の監督下で作業が可能な方を原則とします。
- 純正部品の取外し・取付け作業は、マツダ㈱発行の整備書を参考に作業を行ってください。
- 作業中に車が動き出さないように平坦な場所でパーキングブレーキ等をかけて確実に停車させてください。また、エンジンが完全に冷えてから作業を行ってください。
- 適合車種欄に記載する車両以外には絶対に取付けをしないでください。
- 製品は、原則としてクレームには応じかねますので、あらかじめご了承ください。また、車体に改造が施されていたり、純正ではない部品が取付けられていたりした場合は、または日常点検を怠ったために発生した事故などについては、弊社は一切の責任を負いません。
- 本製品は遮熱効果を最大限発揮させるため、インテークダクトとボンネットのクリアランスが最小限となる様、設計されており、車両の個体差によっては、ダクトケースとボンネットが干渉する場合があります。もし干渉が発生する場合は、ボンネットの高さ調整などを行ってください。

PARTS LIST

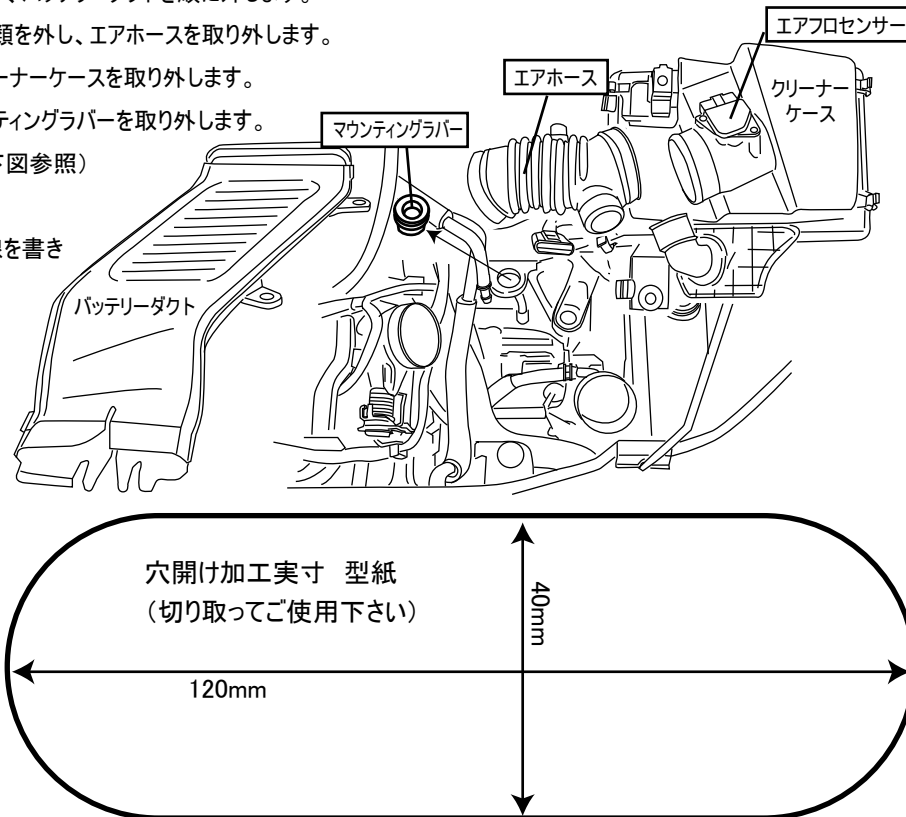


※ロアケース、ロアクランプ、アダプターはセットした状態で包装されています

- 1: エンジンカバー、バッテリーボックスカバー、バッテリーダクトを順に外します。
- 2: ノーマルエアホースに付いているホース類を外し、エアホースを取り外します。
- 3: エアフロセンサーのカプラーを外し、クリーナーケースを取り外します。
- 4: クリーナーケース下側のボディ側マウンティングラバーを取り外します。
- 5: バッテリーダクト裏側を加工します。(下図参照)



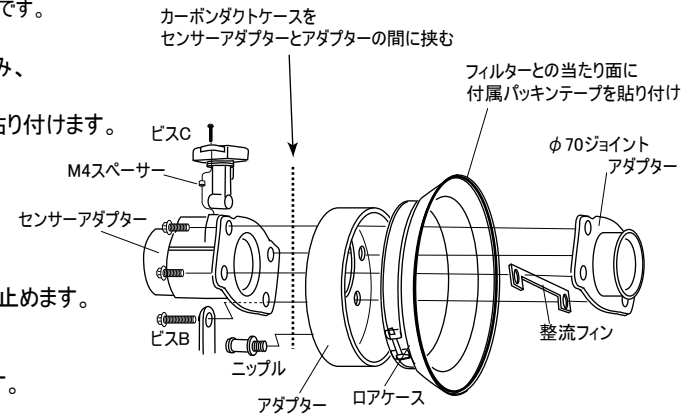
穴を開けた廻りにパッキンテープを貼り付けます。余ったパッキンテープは、フィルター取り付け時に使用しますので残しておいてください。



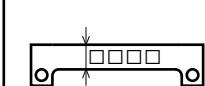
ラムエアインテークシステムの取り付け

注) 各作業は仮止めで行い、位置が決まってから増締めを行った方が容易です。

- 1: アダプターとセンサーアダプター間にカーボンダクトケースを挟み、右下図を参照しパーツを組み立てます。ロアケースのフィルターとの当たり面に付属パッキンテープを貼り付けます。
- 2: ノーマルケースからエアフロセンサーを取り外し、付属のセンサーアダプターに取り付けます。(固定は付属M4スペーサーを挟みビスCで固定)
- 3: センサーアダプターに付属エルボウホースを取り付けバンドで止めます。
- 4: アダプターロアケース部にフィルターをVクランプで取り付けます。
- 5: クリーナーASSYをエンジンルーム内に配置し、エルボウホースをスロットル部に取り付けます。
- 6: ステーをボディに固定します。ノーマルクリーナーケースがささっていた穴のマウンティングラバーを外し、ワッシャー(大)を上下に挟みステーを固定します。



整流フィン の使用方法



- BK3Pに取り付けの際＝フィン幅10mmを使用して下さい。
※エアフロセンサーの個体差でA/F学習値が異なりエンジン警告灯が点灯する場合はフィン幅15mmを使用して下さい。
- BKEPに取り付けの際＝フィン幅15mmを使用して下さい。

- 7: エアフロメーターのカプラーを取り付け、加工したバッテリーダクトを装着し、バッテリーカバー、エンジンカバーを元に戻します。バッテリーダクトとカーボンダクトケースの間にワッシャースペーサーを挟んで取り付けます。

※各部緩みがないよう増し締めします。
また、必ず定期的な増し締め点検を行なって下さい。

